熊本地震における福岡県透析医会の対応

百武宏幸
福岡県透析医会

要　旨

福岡県は南部が熊本県と接しており，熊本地震に対する支援において一番役に立たねばいけない立場であると考えている．今回，日本透析医会常務理事山川先生より被災した透析患者の受け入れ可能状況調査を依頼されて比較的短時間で集計することができたのは，日頃の会員間の連絡網の構築の成果と考える．被災した場合も，被災を支援する場合もいち早く現状を把握することが最も重要な事だと思われる．

1　福岡県透析医会について

福岡県透析医会は平成 29 年 1 月で設立 40 周年を迎える．現在会員施設数は 146 施設である．県内を福岡ブロック（63 施設）・北九州ブロック（39 施設）・筑豊ブロック（15 施設）・筑後ブロック（29 施設）の四つに分けてそれぞれに副会長をおいている（図 1）．地理上南東部は大分県，南部は熊本県，西部は佐賀県と接している．

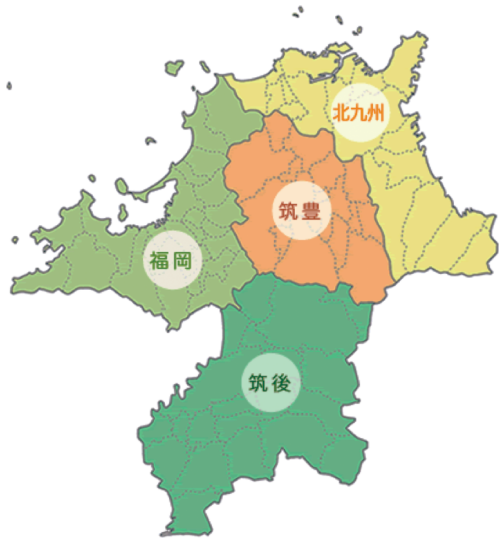

図 1　福岡県透析医会のブロック分け

福岡県透析医会では，日頃より会員への連絡をメーリングリストによるメールと FAX 送信にて行っており，それらを利用して理事会報告メール配信やアンケート調査も行っている．さらに年に 1 回の日本透析医会災害時情報伝達訓練もメールにて参加要請を行っている．このような情報収集能が今回の熊本地震に対する支援に大変役立ったので報告する．

2　福岡県透析医会の対応

平成 28 年 4 月 14 日 21 時 26 分，1 回目の震度 7 の地震が熊本で発生．同日 22 時 50 分福岡県透析医会会員全員に地震による被害がないかをメールにて調査した（図 2）．

結果，福岡県内の透析施設では被害を認めなかった．翌 4 月 15 日 9 時に熊本県透析施設協議会会長久木山先生に電話連絡し透析支援が必要かを確認したところ，その時点では熊本県内での相互支援で透析可能との返事であった．引き続き 9 時 30 分に大分県透析医会会長亀川先生に電話連絡し被害の有無を確認するも大分県では被害報告はなかった．今回幸いなことに，一連の熊本地震において携帯電話と固定電話は支障なく使

Fukuoka Dialysis Association Plans for the Kumamoto Earthquake
Hiroyuki Hyakutake
Fukuoka Dialysis Association

福岡県透析医会会員各位
お疲れ様です．各施設の被害状況はいかがでしょうか？
今回の地震での被害の有無を日本透析医会のホームページの災害時情報ネットワークより報告お願いします．　福岡県透析医会会長　百武　宏幸　拝

図 2　被害確認メール

用可能であった．

4 月 16 日 1 時 25 分，2 回目の震度 7 の地震が発生．福岡県筑豊地方でも携帯電話の地震警報の警告音で目が覚め，その後震度 4 の揺れを認めた．朝 6 時，日本透析医会常務理事山川智之先生より電話連絡があり，2 回の連続した地震で熊本県の透析施設に甚大な被害が出ており，1,000 人規模で患者移送が必要かもしれないから，福岡県での支援をお願いしたいと申し出があった．

9 時まで待って，熊本県透析施設協議会会長と大分県透析医会会長に再度電話で連絡．大分県は被害を認めていないとの報告であったが，熊本県は基幹病院にも被害がでていて詳細を調査中との返事であった．

9 時 30 分：福岡県透析医会会員全員に対して，臨時透析受け入れ可能数の調査メールを発信（図 3）．

10 時：厚生労働省健康局癌疾病対策課より電話にて，福岡県での透析患者受け入れ可能状況を至急確認してほしいと要請あり．

12 時 30 分：福岡県内で 1,300 名を超える受け入れが可能と判明し，熊本県透析施設協議会会長・厚生労働省健康局癌疾病対策課に連絡．表 1 に受け入れ可能な筑後ブロックとその他のブロックの施設の一部を表示する．

18 時：大分県透析医会会長より，大分県内透析施設は自力で透析可能と連絡あり．

23 時：厚生労働省健康局癌疾病対策課より，長期転院のさいの住居についての調査依頼あり．

4 月 17 日 9 時：久留米大学病院に 10 名の入院透析患者の搬送が行われた．

同日 10 時：福岡県透析医会会員に，本日の熊本よ

福岡県透析医会会員各位
熊本地震にあたって受け入れ可能ベッド数を調査させてもらっていますが，現地の状況はかなりひどくて基幹病院においても入院患者をも転院させなければいけないようです．各施設での受け入れ数の回答を日本透析医会災害時情報ネットワークホームページに記載するにあたって，ある程度まとまった人数を受け入れられるように，シフトごとに何人受け入れられるかをご回答下さい．
例えば，月水金なら 2 クールを 3 クールに変更して 1 クール分の人数をお知らせください．その分透析時間が短くなりますが，どうか御協力お願い致します．
特に大牟田市の施設の受け入れ数を早急に把握したいと思っております．
また，入院透析可能数をメモ欄に記入していただけると助かります．
宜しくお願い致します．

図 3　透析受け入れ可能数調査メール

福岡県透析医会会員各位及びスタッフの皆さん
お疲れ様です．日頃より透析医会の活動に御理解・御協力をいただきありがとうございます．さて，今回の熊本地震に対しまして受け入れ可能情報収集の御協力心より感謝申し上げます．
今朝熊本県透析施設協議会会長の久木山先生と連絡を取りまして，今のところ西日本病院の入院患者 10 名を久留米大学にお願いした以外には福岡県にお願いする患者さんはいらっしゃらないとのことです．引き受けいただいた久留米大学深水教授に感謝申し上げます．
協力を申し出ていただいた施設では日曜日にも関わらず先生方・スタッフの方々が待機していただいているものと思います．
本当にありがとうございます．本日の受け入れ要請はないようです．
ただし，明日はどうなるかわかりませんので，引き続き御協力の程宜しくお願い申し上げます．

図 4　患者受け入れについてのメール

表 1　福岡県における受入可能数（全体のうち筑後ブロックを中心に表示）

施設名	入院 HD 可能	HD 日　4 月 17 日	月水金	夜間	火木土
聖マリア病院		状況によって○	10	10	10
久留米総合病院		不可			
花畑病院		不可			
吉武泌尿器料医院		不可	2	3	2
松尾内科医院		不可	10（14～18 時）		3
今立内科クリニック			3	3	3
山下泌尿器科医院			1		1
森山内科			5		5
田主丸中央病院			2		2
ヨコクラ病院			5		
春日医院		12 名			
米の山病院		15～20 名			
シーエムエス杉循環器科内科病院		20 名			
チクゴ医院			10		5
大熊泌尿器科皮膚科医院				2	
高木病院					
むとう内科クリニック		20 名			
中村クリニック			2＋α		
村石循環器科・内科					22（14 時～）
公立八女総合病院					10
丸山病院			2 午後		1
安本病院			2		2
長田病院			2		7
朝倉健生病院			5		2
久留米大学病院　腎臓センター	入院 100 床				
姫野病院					
大牟田市立病院		32 名			
古賀病院 21		30 名			
飯田クリニック		×			
くまクリニック	入院 5 床	60 名×2 クール	60 名		
はこざき公園内科医院		130 名	50 名		
重松クリニック		50 名	30 名		
福岡腎臓内科クリニック		15 名	15 名		
高橋内科クリニック		100 名	50 名		
福岡徳洲会病院	入院 15～20 床				
九州大学病院　腎疾患治療部	入院 15 床				
福岡赤十字病院　腎臓内科	入院 10～15 床				
原三信病院	入院 5～10 床				
九州医療センター	入院 8 床				
西福岡病院	入院 5 床				
重松クリニック	入院 4 床				
福岡大学病院　腎臓・膠原病内科	入院 3 床				
浜の町病院	入院 3 床				
宗像医師会病院	入院 3 床				
原病院	入院 3 床				
九州中央病院	入院 2 床				
白十字病院	入院 2 床				
村上華林堂病院	入院 1 床				
福岡県済生会福岡総合病院	不可				

りの患者受け入れはないと連絡（図 4）.

3　考　察

東日本大震災とは異なり，今回の熊本地震では通信網の障害がなかったため，電話・メールでの連絡が取れたのでより迅速な支援が可能であった.

地震発生後の急性期が経過したら，その後は中・長期的な支援が必要となってくる．今回，日本透析医学

会・日本透析医会・日本腎不全看護学会が初めて日本災害時透析医療協働支援チーム（JHAT）を結成し，医師・臨床工学技士・看護師の派遣を行った．人的支援のひとつの形としてこれからも発展させてもらいたいものである．そこで，福岡県透析医会としてJHAT活動に対して300万円の寄付を行った．また，今回の熊本地震では被害のあった地域が比較的限局していたため，10名の久留米大学転院を除き熊本県内での患者転送で対処できた．さらに，厚生労働省が率先して動いてくれたために，給水等の透析施設に対する自治体の対応がスムーズであったことも県外への多人数の患者移送が行われずにすんだ原因の一つと思われる．しかしながら，住宅が被災したために地元で生活できない人達が相当な数に上ると思われたので，九州透析医会会長新里先生を中心として，九州各県で公営住宅の被災者受け入れについても調査を行った．福岡県においては，福岡県医師会を介して住宅調査をお願いしたところ迅速に調査することができた．

今後「九州は一つ」を合言葉に九州各県の連携を強めていき，起こるであろう東南海地震等の大規模災害に対して準備をしていきたいものである．